

三條別院のご案内

真宗大谷派 三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

「正信偈真四句目下、五つで十方微塵の、回向は世尊我一心ですね。はい、結構です」

「それでは、宜しくお願い致します」「今日は大勢の出仕で有難い事ですね」「これは、お取り越し報恩講で、法要直前にお鍵役（ご連枝）に法要次第、出仕者、巡讃者のお伺い上がった時の様子です。ご縁を頂いて、報恩講の式支配の役を勤めさせて頂いております。私の役目は、お鍵役の想い・願いを、ご出仕の皆様にお伝えする事を心がけて勤めさせて頂いております。それにしてもお鍵役は、出仕者全員に目を通され、「今日は、〇〇さんご出仕ですね」と、毎年の報恩講を親しくお勤め下さっておられるのだな、と有難く感じております。

私は、以前は出仕作法もあるし、巡讃が当たたら恥をかかぬかも知れないしな、等と出仕には消極的でした。しかし近年は、出仕作法の講習会も行われる等の事前学習会もあります。どうか一人でも多くの方のご出仕を願っております。いづれにしても、お勤めや儀式のプロのみが勤める「報恩講」ではなく、駐車場の役目や、受付の係や、堂内の係も、そして、教区内の全寺院、多くのご門徒がこぞってお勤めする「報恩講」になればと思います。

今、別院の整備事業が行われております。参詣の方には、より快適に、各種研修会はより充実したものになると思います。これを「ご縁」にして、一人でも多く念仏者が誕生すればと願っています。私自身も、信仰の確認の場としての別院であればと思っています。

(第二十組 真光寺 大野成一 氏)

○次回の「三條別院に想う」は、

春日 崇氏 (第十四組 西樂寺) より

「執筆いただきます」

■別院公開講座 (北西憲二氏) 報告

初夏の晴天に恵まれた五月二十五日(日)、三條別院公開講座にて北西憲二氏(森田療法研究所 所長・北西クリニック院長)に今年もご講演いただきました。講題は「心の問題と仏教思想・親鸞思想―死と生をめぐって」。西洋的な治療法の譬えとして筆頭に挙げられたのは、癌治療。西洋的な治療法が東洋的な方法を駆逐してしまったのは、ペニシリンを代表とする感染症に対する治療の成功(圧倒的な!)以降であり、その延長線上

で外科手術や抗癌剤により、「退治する」治療が中心となっている。病を治すことに夢中になり、それが自己目的となってしまっている。講師は原始仏教・浄土真宗・老荘思想・日本の自然論により、西洋的な方法論に対して「徹底してはからわない(治そうとしない)」という東洋的な発想法があると指摘されました。今回は特に死をめぐる話を中心であり、「恐怖」をありのままに見つめると、根底には必ず表裏一体の「生の欲望(生きたいという欲望)」があり、それを改めて見出し、いくことが必要であると結論付けられました。欲望を肯定的に捉える森田理論と欲望を煩惱と捉える仏教ですが、到達点は近いように感じます。近年の講師の活動には、東日本大震災におけるPTSD(トラウマ)治療があり、トラウマの原因を追究することなく、治療していく道が森田療法にはあるという話もあり、東日本大震災犠牲者追弔法会や被災地からの保養事業を行ってきた別院・教区にとつても、気づかされるところが多くありました。「地域に開かれた別院」を旗印に、北西氏には三年間、来年までご来院いただく予定です。関心のある方はぜひご参加ください。



【70名を超える参詣があった】

春の別院奉仕研修会報告

五月二十三日(金)、推進員と別院有志の会のみなさんにより恒例の清掃奉仕が行われました。本堂・旧御堂・書院は大改修中ですので、主に同朋会館の障子張替え、境内地の草取り整理、鐘楼堂まわりのお堀(見た目は側溝ですが)の泥さらいをしていただきました。

境内清掃組は、ご持参のエンジン草刈り機も登場し、ベテランの皆様の手順により滞りなく終了。工事の足場等があり、隅々まできれいに出来なかつたのが心のこりでありました。今回の清掃の目玉は「障子張り」でありました。同朋会館一階、二階の全障子四十五枚の張替えを約三時間で終えなければなりません。作業に掛かりますと案の定、家で奥様のお手伝いを真面目にしておられる方と、そうでない方のチカラの差は歴然。古い紙を剥がすのは、面白いこともありスムーズでしたが、紙を張る作業がなかなかはかどりません。

昼食の弁当は「油っこいのはいかなものか」の意見もあり、海苔巻等が入った田舎寿司とし、寿司を食べながら午後の作業の手順を話し合いました。

「アメリカのフォード自動車は分業・流れ作業を取り入れることによって、自動車産業の雄となった」との有意義な



【刻々と時間が迫る…】

意見により、糊を付ける係、紙を張る係、余分な紙を切り落とす係という、分業体制を採ることとして、午後の作業に臨むことになりました。

みなさんの知恵と汗のおかげで午後の作業はどんどんはかどり、予定時間はか前に障子張りを終了することが出来ました。

同朋会館おいでの際はきれいになった障子戸を是非ご覧ください。

秋の別院奉仕研修は報恩講前の仏具「おみぎき」も加わります。大修復なつた本堂をみなさまとお掃除したいとおもいます。大勢のご参加をお待ちしています。

御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。本堂修復に伴い、一年間仮本堂(同朋会館二階)でのお勤めとなります。



【5月の講師小林氏】

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げております。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【六月二十八日(土)】

午前十時 お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

念仏讚 洵五
和讃 回口 次第六首
回向 願以此功德

◎今月の法話講師

土屋 真氏 (第十五組 淨照寺)

※新年度の講師一覧は次号でお知らせいたします

■定例法話会のご案内

毎月十二日は、「二度の命日」と呼ばれている前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文の中で、この「二度の命日」についてお書きになられています。(四帖目十二通) 旧御堂にて開催しておりましたが、改修工事に伴い、一年間仮本堂(同朋会館二階)での開催となります。皆様、お気軽にお越しください。



【井上 正氏】

■別院書道教室のご案内

◇開催日 毎月一回

(第一、第四水曜日)

◇時間 午後六時三十分～八時

◇講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

◇謝 二五〇〇円(テキスト代含む)

■ 別院 声明 教室 の ご 案内

別院を会場に正信偈の稽古を行っております。今期は六月で終了し、また八月より開始いたします。日程が変更になりましたので、ご注意下さい。

◇開催日 六月二十五日(水) (最終回)

◇時間 午後六時より午後八時まで

◇講習内容 正信偈 草四句目下 念仏讃 淘三

◇講師 中富正純氏(第二十三組 福照寺)

◇参加費 五〇〇円/回

■ 三条 別院 巡回 について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。

しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただく縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせてまいりますので、お気軽にご相談させていただきます。

※現在、宗祖真向御影巡回を行っております。

ご希望の場合は**組長経由**でご相談ください。

■ 別院 奉仕 研修 について

先達の篤き御懇念によつて護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、

そのような奉仕研修会を開いてみませんか。ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、ご要望等、ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方(団体)の、冥加金は左記のとおりです。

◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

- ・朝食代 五〇〇円
- ・昼食代 一、〇〇〇円程度
- ・夕食代 一、三〇〇円程度

■ 私たち、別院有志の会です！(会員の声)

有志の会も三月に会長が決まり、活動も年間を通して定まってきました。

会合も主に定例法話のある十三日に開催し、法話後は本堂の掃除や座談等十余名の会員で、全員が「恩徳讃」そのものの気持ちを持って活動してきました。

最近では色々な行事のお手伝いも職員から頼まれ、少しは別院の護持に役立つのかと思うようになりました。



二月の定例法話で藤波講師から「酒飯茶」のお教えをいただき、勝手な解釈をして、座談会の時に具体的に実行しようという話がまとまり、「雪月花」の時期に懇親会をしようという事で、四月の定例

法話の後で藤波講師をゲストにお迎えし花見の宴を開きました。桜が満開の幼稚園の前庭で、職員の家族も参加し、大いに盛りあがりました。その後二次会、一部の人は三次会まで、「酒飯茶」の心を忘れずに楽しい春の夜を過ごしました。その一方で秋の月見の宴を心待ちにしているのは、私一人だけではなかったようです。

そんな仏の花道と自然のめぐみに感謝して活動する有志の会に参加してみませんか。お待ちしています。(米山久雄)

◇◇ 編集後記 ◇◇

このところ別院に参詣する団体参拝が非常に多い。県立歴史博物館で開催中の「親鸞となむの大地展」にいらした方のツアールートのお多めに三条別院を加えて下さっている。非常に有難いことだ。

この団体参拝のご希望者を対象に、修復工事中の本堂、旧御堂の工事現場視察を行っている。これがとても面白い。現場監督から工事の概要や進捗状況を聞き、工事途中の現場の空気に触れると、いよいよ一年後に迫った御遠忌法要や半年後に完成する伽藍で執り行われるお取り越しの期待が膨らんでくる。また、視察の時期によつて様子が次々に変わっていくため、変化を見ているだけでも楽しくなってくる。

「親鸞となむの大地展」は六月八日で終了してしまいが、工事は続いていく。完成してからのお荘厳の変化に驚くのも楽しみであるが、活気づくその工程にあうのはいかがだろうか？

〔松浦(武)〕